

URBAN DESIGN VISION YOKOHAMA

横浜都市デザインビジョン
 個々の暮らしと横浜を豊かにするための羅針盤
 【概要版】



横浜の都市デザインは
 横浜らしい豊かな風景をつくること

1 横浜の都市デザインの基礎

横浜は、「魅力と個性のある人間的な都市の実現」を理念として、都市デザインに取り組んでいます。個々の暮らしや置かれる状況が多様化している今、個々の活動とその成果がそのまま横浜全体の魅力と個性となり、活動が生き生きとしている都市は自ずと人間的な都市になるのではないのでしょうか。

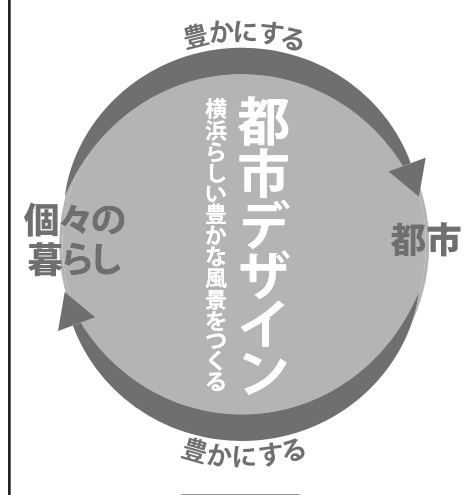
横浜の都市デザイン活動とは

1. 個々が自分の豊かな暮らしの風景を思い描くことから始める
2. 横浜らしい豊かな風景とは何かを共有し、取り組む
3. 市全域で取り組む
4. 異なる領域を横断しながら取り組む
5. 長期的に捉えて取り組む

別章へ
 (裏面)

はじめに

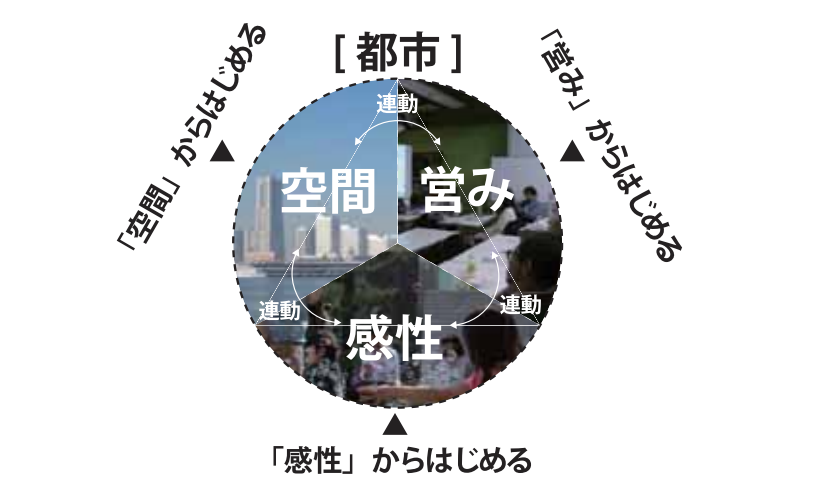
暮らしをより豊かにしようと取り組む主体的な個々の活動と成果が、横浜の豊かさをつくり、再び個々の暮らしの豊かさへと還元されます。



都市デザイン活動が
 日常化している都市を
 本ビジョンを手にした
 皆さんとともに目指します。

2 都市への着眼点

都市への着眼点は、都市の捉え方であり、風景に描き込む要素です。横浜の都市デザインは「空間」「営み」「感性」の3つの着眼点で捉えます。そして都市を風景という言葉に置き換えて、個々の暮らしに引き寄せて都市を身近なものとして考えます。



- 【空間】 自然物・人工物などの物的要素により構成される都市基盤や環境
 例:建物 街並み 道 広場 駅 港 緑地 海 川 山 など
- 【営み】 空間において展開される人々の生活・活動
 例:働く 住む 商売 観光 娯楽 清掃 会話 移動 など
- 【感性】 人々が営みを行う際の動機や欲求、および営みを通して得られる感情・感覚
 例:働きたい 住みたい 訪れたい 楽しい うれしい 心地いい 好き 驚き など

3 共有する価値

価値を共有することは、個々が思い描く風景とその実現のための活動に大きな方向性を与え、個々の活動が生き生きとする土台にもなります。5つの価値は、横浜がこれまで培ってきた価値であり、これからさらに高めていく価値です。

- 創造性** 人々の気質や技術、企業活動や経済的活力、歴史的建造物や景観などの地域の特性が活かされ、個々の特徴が相互に関連し、社会状況を見据えた先進的なものごとを生んでいる、創造性の高い風景
- 親近感** 人と人、人と自然のふれあいなどの場や人々の生活・活動に呼応した快適な街並みが形成され、活発な人々の交流や活動があり、新たな人やものごととの出会いが生まれている、親近感のある風景
- 寛容性** 世代や国籍などの人の特徴、様々な住まい方・働き方、それぞれの地域の特徴などが尊重され、人々による新たな挑戦・失敗を受け入れながら発展している、懐の深い、寛容性をもった風景
- 有機的** 人々の生活や企業・地域団体などの活動、公共施設や自然環境などの諸要素、都心部・郊外部・他都市などの多様な地域が密接に連携し、柔軟につながりながら全体として自律している、有機的な風景
- 物語性** 地形、自然、街並み、暮らし、歴史、文化などの特徴を見出し、各地域や活動の文脈としてつないでいくことで、愛着や誇りが生まれ、奥行きのある風土が育まれている、物語性のある風景

4 取り組み方

思い描いた風景を実現するための活動には、様々な人が関わることを予想されます。その際、関わる個々が、その活動に対して、姿勢・視点・行動を考えて臨むことで、その活動は組織力と機動力を持ち、実現性のあるものとなります。

取り組み方を考える際のヒント

- 姿勢** : どういう立ち位置で臨むか
- 視点** : どこを重視するか
- 行動** : 何をするか

5 都市デザイン行政の取組

姿勢 「舵取り」として
 日常化に臨む

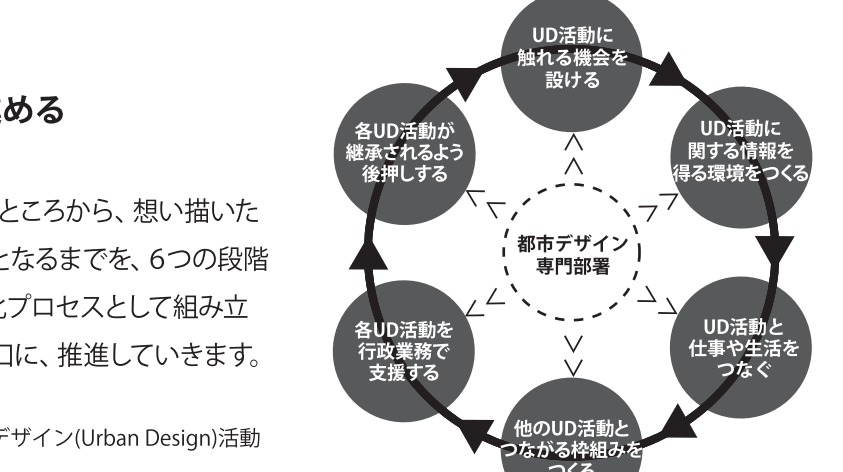
個々が都市デザインに取り組む主役となり、個々の活動がより生き生きとしたものとなるよう、「舵取り」として幅広い側面から総合的に都市デザイン活動の日常化に臨みます。舵取りとしての取組と個々の活動とが互いに補完しあう関係となった時、各活動はより円滑かつ活発になり、都市デザイン活動が日常化された都市に近づきます。

視点 舵取りとして
 5つの視点を重視する

- 個々の活動の実現性が高まり、その成果がより豊かな風景を生み、横浜全体の豊かさへとつながるために、舵取りとしての5つの視点を重視します。
1. 都市全体を俯瞰する
 2. 様々な要素をつなぐ
 3. ものごとの本質をつきつめる
 4. 持続的な効果をもたらす
 5. 変化の余地をのこす

行動 日常化プロセスを
 組み立て、推し進める

個々が都市デザイン活動に取り組む始めるところから、思い描いた風景を実現し、長く豊かさを保持するものとなるまでを、6つの段階に分け、それらを都市デザイン活動の日常化プロセスとして組み立て、都市デザインの専門部署を庁内外の窓口に、推進していきます。



※UD活動=都市デザイン(Urban Design)活動

URBAN DESIGN VISION YOKOHAMA

横浜都市デザインビジョン
個々の暮らしと横浜を豊かにするための羅針盤
【概要版】

横浜の都市デザイン活動は、風景を想い描くことから始まります。

横浜らしい豊かな風景をつくる活動は、自分の豊かな暮らしの風景を想い描くことから始まります。

この別章は、都市デザイン活動を始めるために個々が想い描いた風景や他者と議論・共有した風景を綴じておくスケッチブックです。

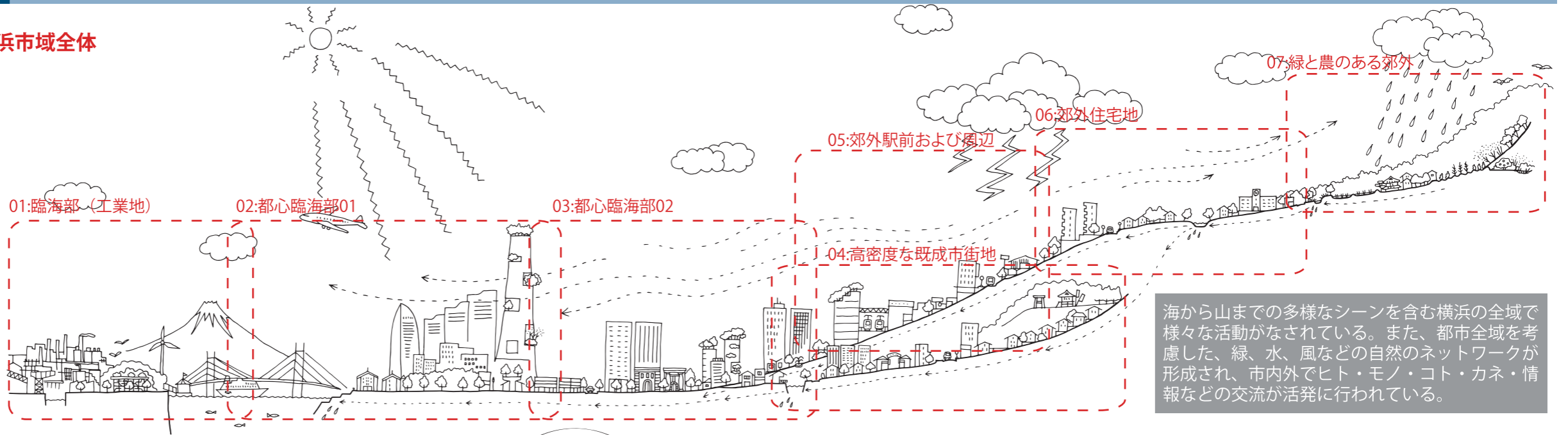
(本編には)今既にあると想定する地形や建物が描いてあるだけの下絵がありますので、描き込み例を参考に、様々な風景を想い浮かべて描き込んでみてください。

また、このスケッチブックを他者と議論・共有するためのものとしても使ってみてください。

そして、想い描いた風景の実現に向けてぜひ取り組んでみてください。

別章 風景スケッチブック 描き込み例 ※文章や吹き出しなどは本編より一部抜粋して掲載しています

00:横浜市域全体



海から山までの多様なシーンを含む横浜の全域で様々な活動がなされている。また、都市全域を考慮した、緑、水、風などの自然のネットワークが形成され、市内外でヒト・モノ・コト・カネ・情報などの交流が活発に行われている。

01:臨海部(工業地)

利用されずに眠っていた工業跡地が、土地や建物の良さを活かしながら活発に再利用されている。



02:都心臨海部01

海から見た視点を意識し、美しい港の景観が創り出されている。



03:都心臨海部02

様々な分野や職種の人が住み、働くまちとして定着し、文化・産業・教育が活発なまちになっている。



04:高密度な既成市街地

災害対応力を高めつつ、坂道や路地、小広場を魅力的に演出するなど、下町らしい風情も感じられるまちづくりが進んでいる。



05:郊外駅前および周辺

駅前に生活支援施設や地域の人々が集える広場があり、店舗などが出店し、豊かなコミュニティが生まれている。



06:郊外住宅地

都心で働く必要のない人が移住したり、平日は都心で働く人が週末利用する住居として空家を利用している。



07:緑と農のある郊外

大都市近郊の利点を生かした農業が継承され、新規就農者も増えて定着してきている。

